

『リベラルアーツ学群プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この履修モデル集は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

履修モデル集は、各プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- ・「履修の手引き」には、各プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望するプログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- ・特に、プログラムのカリキュラムが、先修条件が設定されていて履修順序に留意する必要があるのか、比較的自由に履修できるのかで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- ・「履修モデル」とは、各プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各プログラムを修了するためにはメジャー32単位、マイナー16単位の科目を修得することが必要ですが、どのプログラムも、それを上回る数の科目を提供しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたテーマの例にそったカリキュラムを示したものです。
- ・各プログラムの「履修モデル」ページには、そのプログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目(教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目)です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- ・また、「その他の推奨科目」には、そのプログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- ・リベラルアーツ学群には、30のプログラムがありますが、この冊子には、各プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心あるプログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、モデルのとおり履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

科学コミュニケーションプログラム

履修のしかた

科学コミュニケーションは社会の中で科学・技術について「伝える」「対話する」ことがなぜ必要なのか、どう実践すればよいかを探究する人文・社会系の学問です。このプログラムは基本的には履修順を気にすることなく自由に科目を選択することができます。メジャーの場合もマイナーの場合も、以下の点にご留意の上、履修計画を考えてください。

- 「科学論入門」と自然科学系(物理学・化学・生物いずれか)の概論：
1年次に履修するのが望ましい(先修条件にしている科目が多いため)
- 科学技術コミュニケーション論Aと科学技術コミュニケーション論B：
どちらも履修することが望ましい(このプログラムの主要科目のため)
- 実験・演習
ひとつは履修することが望ましい(科学に対する理解を深めるため)

他のプログラムとの関係

科学コミュニケーションは人文・社会・自然いずれの分野とも関連しています。下記プログラムをダブルメジャーやマイナーにすることで、より深く学ぶことができます。

- 科学について「伝える」「対話する」に関心がある場合：
コミュニケーション学、心理学、教育学、博物館学、メディア・ジャーナリズムなど
- 対象となる科学に関心がある場合：
数学・物理学・化学・生物学・情報科学、ビッグヒストリー
- 科学知識やその歴史、科学と社会の関係性に関心がある場合：
哲学、宗教学、歴史学、社会学、国際協力、環境学など

留学・教職その他

- 留学
早めに必要な科目を履修する必要がありますので、計画的に履修するようにしてください。
- 教職
わかりやすく伝える技術を身に着けたい、自分の科目と社会との関係を考えられるようにしたいという教職希望者を歓迎します。教職課程オリエンテーションや履修ガイドをよく読んで計画的に履修するようにし、詳細は各教職教科担当の教員に相談してください。

学生へのメッセージ

- 「科学好き」から「科学は苦手だけど興味はある」という方まで
このプログラムでは科学・技術と社会の望ましい関係について考えます。理系志望者はもちろん、計算などが苦手な人文・社会系の皆さんにも取り組みやすいテーマです。
プログラムの学修を通じ、社会の中の科学・技術について多面的に考えることができるようになると同時に、わかりやすい表現や対話の場を作るための考え方を身につけることができます。将来は教員や学芸員、ジャーナリスト、ライター、企業や大学の広報や営業、医療従事者や公務員などの幅広い職業で学びを活かすことができます。
興味があればお気軽に担当教員に声をかけてみてください。

科学コミュニケーションプログラム

1 コミュニケーションの実践者を目指す場合の履修モデル

教員やジャーナリスト・ライター、学芸員、広報、広告など、実際に科学に関わるコミュニケーション実践を行うことを目指す人のための履修モデルです。メジャーでもマイナーでも推奨科目は同じです。

このモデルでは、科学的な基礎とコミュニケーションの基礎について学ぶ科目が中心となっています。科学のコミュニケーション不全を防ぐための考え方やスキルなど、科学コミュニケーションを行うための基礎的素養が身に付きます。卒業後には科学やコミュニケーションに関わる様々な職種でスキルを活かすことができます。具体例としては教員やジャーナリスト、ライター、メーカーや製薬などの企業・研究所の広報職員、公務員などの職業や、メディア、教育、出版、環境や防災、博物館、広告などの業界で役立ちます。

なお、このプログラムではメジャーであってもマイナーであっても人文・社会系の科目と、自然系の科目の両方を学びます。自然領域系の3分野(物理・化学・生物)のうちどの分野を選ぶかによって導入や応用、実験・演習科目が変わりますので、自分の関心に合うものを選んでください。

また、中学校・高等学校の理科教員免許状取得を目指す場合は入学年度の履修ガイドの教職課程のページを必ず参照してください。

科学コミュニケーションプログラム科目

level カテゴリー	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
基礎 プログラム					科学・技術・社会A	2		科学哲学概論	2			
				○	科学・技術・社会B	2		科学技術コミュニケーション論A	2			
					科学技術史	2	○	科学技術コミュニケーション論B	2			
応用	○	西洋哲学・思想史A	2		西洋哲学・思想史B	2		微生物学	2			
					西洋哲学・思想史C	2	○	分析化学 I	2			
					○ 力学 I	2	○	化学熱力学	2			
					○ 電磁気学 I	2						
					○ 熱力学	2						
					○ 振動と波動	2						
					○ 無機化学 I	2						
					○ 有機化学 I	2						
					○ 植物学 I	2						
					○ 動物学 I	2						
					○ 生態学 I	2						
				○ 現代社会研究A	2							
実験・ 演習					○ 物理学実験 I	2	○	地球環境調査法	2			
					○ 化学実験 I	2						
					○ 生物学実験 I	2						
総合		宗教学概論	2		西洋文明と思想(古典古代)	2	○	環境とメディア	2			
		地球環境問題と国際取組	2		化学と人間社会	2		西洋文明と思想(中世から近代初頭)	2			
	○	現代コミュニケーション学理論	2	○	環境リスク論	2		応用倫理学研究	2			
				○	メディアコミュニケーション	2		環境社会学A	2			
				○	博物館情報・メディア論	2		食品安全論	2			
				○	ドキュメンタリーを見る	2		環境NPO・NGO	2			
					環境マネジメント論	2	○	科学と宗教	2			

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 博物館概論〔2〕
- ・ 専攻演習Ⅰ〔2〕
- ・ 専攻演習Ⅱ〔2〕
- ・ 卒業論文・卒業研究〔2〕
- ・ 科学論入門〔2〕
- ・ 物理学概論〔2〕
- ・ 化学概論〔2〕
- ・ 生物学概論〔2〕
- ・ 環境学入門〔2〕

科学コミュニケーションプログラム

3 人文・社会的な関心から「科学と社会」を考える場合の履修モデル

科学を特に人文・社会的な視点から考察することに重点を置いて学ぼうとする場合の履修モデルです。メジャーでもマイナーでも推奨科目は同じです。

このモデルの推奨科目は人文・社会分野に根差した科目が中心となります。これらの科目の学びを通じて、科学という営みそのものを哲学や歴史的、社会的な目線から分析する力を養成します。卒業後は科学や環境、防災などが関わるような職場、例えば行政や企業、NPO、NGOなどで学びを活かすことができます。

なお、このプログラムではメジャーであってもマイナーであっても人文・社会系の科目と、自然系の科目の両方を学びます。自然領域系の3分野(物理・化学・生物)のうちどの分野を選ぶかによって導入や応用、実験・演習科目が変わりますので、自分の関心に合うものを選んでください。

科学コミュニケーションプログラム科目

Level カテゴリ	100			200			300			400		
	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位	推奨	科目名	単位
プログラム基礎				○	科学・技術・社会A	2	○	科学哲学概論	2			
					科学・技術・社会B	2	○	科学技術コミュニケーション論A	2			
				○	科学技術史	2		科学技術コミュニケーション論B	2			
応用	○	西洋哲学・思想史A	2	○	西洋哲学・思想史B	2		微生物学	2			
				○	西洋哲学・思想史C	2		分析化学 I	2			
					力学 I	2		化学熱力学	2			
					電磁気学 I	2						
					熱力学	2						
					振動と波動	2						
					無機化学 I	2						
					有機化学 I	2						
					植物学 I	2						
					動物学 I	2						
実験・演習					生態学 I	2						
				○	現代社会研究A	2						
総合	○	宗教学概論	2	○	西洋文明と思想(古典古代)	2		環境とメディア	2			
		地球環境問題と国際取組	2		化学と人間社会	2	○	西洋文明と思想(中世から近代初頭)	2			
	○	現代コミュニケーション学理論	2		環境リスク論	2	○	応用倫理学研究	2			
				○	メディアコミュニケーション	2		環境社会学A	2			
				○	博物館情報・メディア論	2		食品安全論	2			
				○	ドキュメンタリーを見る	2		環境NPO・NGO	2			
					環境マネジメント論	2	○	科学と宗教	2			

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・ 博物館概論〔2〕
- ・ 専攻演習 I 〔2〕
- ・ 専攻演習 II 〔2〕
- ・ 卒業論文・卒業研究〔4〕
- ・ 科学論入門〔2〕
- ・ 物理学概論〔2〕
- ・ 化学概論〔2〕
- ・ 生物学概論〔2〕
- ・ 環境学入門〔2〕